

身近な白いチョウのいろいろ

筑波大学生物学学位プログラム
博士後期課程（3年）
井上 太貴



図3：モンシロチョウ。翅は白と黒の模様で、筋状の模様は見えない。



図4：スジグロシロチョウ。翅脈に沿って黒い筋が見える。

チョウは昆虫の中でも身近なものの一つですが、そのチョウの中でもっとも身近なチョウといえば、モンシロチョウ（図3）が挙げられます。「ちようちよ ちようちよ なのはにとまれ」と歌われているのはモンシロチョウで、アブラナ（菜の葉）に卵を産み付けるためにとまります。幼虫はアブラナの仲間（アブラナ、キャベツ、ブロッコリーなど）を食べるため、畑の回りでよく見られ、害虫にもなっています。

身近にいる白いチョウがモンシロチョウ、というの間違いではありませんが、モンシロチョウでない白いチョウもよく見られます。最

もよくモンシロチョウと似ているのはスジグロシロチョウ（図4）です。名前の通り、翅に黒い筋が入っているのが特徴です。スジグロシロチョウはモンシロチョウに非常に近縁な種で、モンシロチョウと同じく、幼虫はアブラナの仲間の植物を食べます。モンシロチョウはキャベツやアブラナなどの栽培されているものを好む一方で、スジグロシロチョウはムラサキハナナやイヌガラシなどの野生のものを好みます。このため、畑周辺ではモンシロチョウが多く見られますが、山や森に近い場所ではスジグロシロチョウが良く見られる傾向があります。

スジグロシロチョウには非常によく似たヤマトスジグロシロチョウという種もいて、こちらは民家周辺では見かけませんが、山地に生息しています。かつてはスジグロシロチョウと同じ種とする見方もあったほどで、これらの見分けは非常に難しいです。

モンキチョウも身近にみられる白いチョウの一つです。漢字で表すと紋黄蝶で、黄色のことが多いチョウですが、メスには黄色だけでなく、翅が白いものもあります。また、名前はモンシロチョウと似ていますが、特別近い種というわけではなく、白地に黒い模様という点では共通点があるのですがそのパターンは大きく異なり、幼虫の食べ物もクローバーなどマメの仲間です、全く別の植物です。

チョウの姿も少なくなった季節ですが、モンシロチョウやスジグロシロチョウ、モンキチョウは晩秋まで見られるチョウです。身近に白いチョウを見かけたら、どの種類のチョウか、気にかけてみると面白いかもしれません。

本通信の印刷・配布は

東郷堂様にご協力いただいております

次号は12月発行予定です